



【強度行動障がい】今すべき支援とは...

夏に砂川厚生福祉センター「いぶき」という、強度行動障がいの改善を図るために専門的なプログラムを行っている施設の見学会に参加しました。今日は、そこで私が感じたことを紹介したいと思います。

強度行動障がいとは...

自分の頭を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険に繋がる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他人を叩く、物を壊す、大泣きが何時間も続くなど周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要な状態のこと(厚生労働省 2014)

「強度行動障がい」は、厳密には医療用語でなく、行政・福祉において使われている用語です。

【砂川厚生福祉センター「いぶき」で聞いたこと、見たもの】

先に「いぶき」の概要や、利用者さんの日常・問題行動の資料や映像等を見せて頂きました。手の甲が血だらけになり腫れても尚床に叩きつける、服や毛布の肌ざわりが刺激となり破ってしまう等、衝撃的な内容もありました。

説明の後いよいよ施設見学です。職員の方々がトランシーバーを使い、利用者さんの状況を伝え合いながら緊張感の漂う中、見学がスタートしました。案内された先は、鍵で管理された利用者さんの生活空間で、刺激を極力減らしたシンプルでとても静かな場所でした。その中で一番記憶に残ったのが、ボコボコになった鉄製の扉です。利用者さんが職員の方を呼ぶときや、不安定になった時に少しずつ傷み、この扉はもう3枚目なんですと説明を受けました。こんな頑丈な扉が...と言葉になりませんでした。

強度行動障がいになる要因や有効な支援とは？

■主な要因...障がい特性 × 環境要因 ⇒ 強度行動障がい

強度行動障がいは、本人の障がい特性と環境とのずれ(ミスマッチ)により生じる
「伝わらない」「わからない」等の積み重ね



つまり... 作られた障がい

強度行動障がいは、思春期後に重篤化するケースが多いのだそうです。しかし初めから激しい状態を示すことはほとんどなく、早期に発見し適切な環境設定のもと、適切な支援が行われれば重篤化しない。

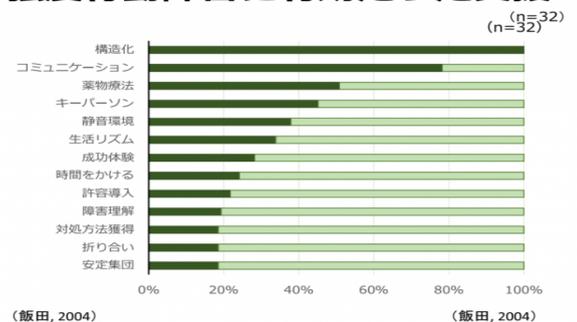
支援者からすると一見困った行動。しかしそれは、困っている本人の訴えなのです。

■有効な支援...

- 構造化・課題設定・環境設定(内容の難易度よりも落ち着いて集中して取り組める空間)
- 自発を促すコミュニケーションツール(PECS等)
- 支援はシンプルでわかりやすいもの(どこでも行えるもの)

その人をかえるのではなく
環境・支援をかえることが大切

強度行動障害に有効だった支援



最後に...

問題行動が起きると、止めさせないと！！と思い、つつい表面上の事象だけにとらわれてしまい、止めさせることが最優先になってしまうことはありませんか？もちろん危険が伴う場合はそれが大切です。しかし問題行動を抑えるだけでは、なんの解決にもならないのではないかと今回の見学会を通して改めて感じました。

私たち支援者がすべきことは、問題行動の意味を追求して、本人の困り感、不安や恐怖を理解し、あるものに合わせるのではなく、その人に合うものを探してつくる。これが大切なのではないかと思えます。これからも児童生徒の一番の支援者になれるよう、今回得たことを大切にしながら向き合っていきたいです。